

① ① 上 空  
② 足 り 不 い  
③ 方 角

④ 細 工  
⑤ 日 曜 日

② 1 ゴ ム 人 形  
2 工

③ I 最 後 の 皮 ぬ ぎ  
II 変 身  
【完答】

4 A イ  
B オ

5 夜  
虫

6 I 2  
II 1  
III 2

③ 1 イ  
2 工  
③ イ

3 A よ  
B あ  
4 帽 子

5 I 4  
II 2  
③ ③ ③  
6 I 工  
II イ  
【完答】

配 点	
①	各2点× 5 = 10点
②~③	各5点× 18 = 90点
<計> 100点	

① 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①「上空」はある地点の上の空、または空の上のほう。天気予報などではよく使われることばである。②「足りない」は必要なだけの分量がないこと。③「方角」は東西南北などの向き、方位。④「細工」はあるたくらみをもって、事実をごまかしたり細かな工夫をしたりすること、または手先を使って細かいものを作ること。⑤「日曜日」の「曜」の右上の部分は「ヨ」を二つ並べたような形になる。

②

1 「ゴム人形のような」「この虫は」「さなぎです」とあった。  
 2 「夏」の「太陽」には強くはげしく照りかがやくようすの「ぎらぎら」がふさわしい。「てかてか」はつやつやと光るようす。「ちかちか」は光がいたり消えたりするようす。「ぼかぼか」は暖かいようすなので春にふさわしい。  
 3 Iは「すませた」なので、すでに終わっていることであり、IIは「はじめます」なので、これから行うことであろう。Iについて、この「……」までのところで「子どもはさなぎにすがたをかえ」たうえに「約三週間でさなぎのくらしをおえ」たのだが、ふさわしい六字のことばが見当たらない。そのあとに「最後の皮ぬぎをして」とあった。IIについて「……」のすぐあとのところではじまったのは「前羽」や「後ろ羽」がかわっていく「変身」であった。

4 A 木のかべをやぶって外にはいだす。 ↓そして ↓木の皮につめをつきさしながらちかくの木にのぼる。  
 (クワガタムシが行うことを順に並べている)

B 夏の昼のクヌギ林にはセミの声があふれる。 ↓でも ↓どうしたことか。クワガタムシはみあたらない。  
 (セミがたくさんいることと、クワガタムシがいないことを対比している)

5 あとに「そのわけは」とある。「夜のあいだだけ」「行動」して、「昼のあいだは」「ねむってい」るのであった。

6 I 「クワガタムシの子どもはさなぎにすがたをかえ、なにも食べず」のうちの、「なにも食べ」ないというのは「子ども」ではなく「さなぎ」のことである。「たまごからうまれ」た「子ども」は「くち木を食いつづけて」とあった。この昆虫は、たまご↓子ども(幼虫)↓さなぎ↓クワガタムシ(成虫)と変わっていくのであった。

II 「昼のあいだは、たいていやわらかい土の中にもぐって」とあるが、「なかには」「えだの上」「木のうろの中」「木のさけめ」に「うずくまり、じっとしているもの」もいた。

III 「クワガタムシのかんさつ」のために「樹液のいずみ」に行くのは「朝、まだ日がのぼらないうち」であった。「昼ま」はクワガタムシのいそうな「樹液のいずみ」を「みつけて」おくだけである。

③

1 「四人」は「背景の絵を描く」「係」になったのだが、「じごくのそうべえ」の「劇」なので「やっぱ地獄」を描かないといけないと気づいた場面である。そこで「てんせいくん」が「見に来る？」といったのである。

2 ② 「かんちゃん」ではない。「かんちゃん」が「たおれた」あとに「かんちゃん」となり「たおれこ」んだのは「ぼく」である。

③ 「うなさいよ」という言い方から女子のせりふだと見当がつくだろう。もちろん「石のお地藏さん」の「赤い毛系の帽子」をぬがせた「かんちゃん」に注意しているのは「ユメちゃん」である。

3 A 「よそ見」はよそを見ること、わき見である。だから「石のお地藏さん」に「ぶつかって」しまったのである。  
 B 「おおあわて」はひどく落ち着きを失うこと。

4 「ひろってお地藏さんにかぶせる」ものである。「かんちゃんがぶつかっ」たせいで「石のお地藏さん」がかぶっていた「赤い毛系の帽子」が「ぬげて落ちた」のであった。

5 I 「1」ではない。確かに「百八段」の「階段」につかれて「たおれこ」んだが、「1」は「石段の石がひんやりして気持ちよかった」という場面である。「4」の直前の「フー」というため息が、このことばにふさわしい。  
 II 「竹林をわたってきた風」にふさわしいのは「2」の直前の「さわさわさわ」しかない。

6 「好意をいだしている」というのは、好きだということである。「ぼく」がわざわざ『はい、はい、はい』と立ち上がった立候補して、強引に主役のそうべえの役をゲットしたのは「妻」の「役」をするのが「ユメちゃん」だったからである。ほかの組み合わせにおける関係には「好意をいだしている」と「わかる」ものはない。